



## 2027年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年6月29日

上場会社名 株式会社しまむら 上場取引所 東  
 コード番号 8227 URL <https://www.shimamura.gr.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 高橋 維一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 辻口 芳輝 TEL 048-631-2131  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2027年2月期第1四半期の連結業績（2026年2月21日～2026年5月20日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年2月期第1四半期	181,663	7.9	17,890	16.8	18,794	18.9	12,857	19.0
2026年2月期第1四半期	168,369	2.4	15,311	5.0	15,812	4.3	10,802	3.5

（注）包括利益 2027年2月期第1四半期 11,979百万円（6.1％） 2026年2月期第1四半期 11,286百万円（0.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年2月期第1四半期	61.92	—
2026年2月期第1四半期	48.98	—

（注）当社は、2026年2月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年2月期第1四半期	576,855	492,636	85.4
2026年2月期	554,667	488,545	88.1

（参考）自己資本 2027年2月期第1四半期 492,636百万円 2026年2月期 488,545百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	100.00	—	115.00	215.00
2027年2月期	—	—	—	—	—
2027年2月期（予想）	—	40.00	—	40.00	80.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2026年2月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2027年2月期の配当予想については、当該株式分割の影響を考慮しております。

3. 2027年2月期の連結業績予想（2026年2月21日～2027年2月20日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	359,887	4.7	32,067	1.9	33,159	1.9	22,910	0.0	110.34
通期	729,193	4.2	66,842	8.7	68,825	8.1	47,321	6.4	227.92

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2026年2月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2027年2月期の連結業績予想における「1株当たり当期純利益」については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年2月期1Q	221,479,794株	2026年2月期	221,479,794株
② 期末自己株式数	2027年2月期1Q	13,841,601株	2026年2月期	13,861,641株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年2月期1Q	207,631,949株	2026年2月期1Q	220,519,815株

（注）当社は、2026年2月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算出しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は業況の変化等により、上記予想値と異なる場合があります。

なお、上記予想に関する事項は添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2026年6月29日（月）に決算説明会（アナリスト・機関投資家向け）を開催する予定です。

決算補足説明資料は、決算発表後速やかに当社ホームページに記載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(セグメント情報等の注記) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、エネルギー価格の高騰や、世界経済の先行き不安が続く中でも比較的堅調に推移しました。特に、半導体需要を追い風とする輸出の拡大や、底堅い個人消費に支えられ、実質GDP成長率は1～3月期で前期比年率+1.8%と、2四半期連続のプラスとなりました。

一方で、原油高の影響や一部原材料の供給不安等は依然として企業活動の重石となっています。また、世界経済では、米国で堅調な設備投資が続いているものの、中東情勢の不確実性、欧州のエネルギー価格高騰、中国の消費低迷などが重なり、依然として先行きへの懸念が拭えない状況です。

### 1) 消費環境の概要

①当第1四半期連結累計期間において、国内の消費環境は、賃上げ率が5%を超え、実質所得も底堅く推移したものの、エネルギーや生活必需品の値上がりが続く引き続き家計を圧迫しました。このため、消費者マインドは慎重な姿勢が続いています。特に衣料品においては、激しい価格競争と消費者の節約志向が根強く、厳しい状況が続いています。

②天候については、寒暖差や一時的に雨が多い時期もありましたが、全体を通して暖かい日が続く、5月度後半は記録的な暑さとなり、夏物の販売に追い風となりました。

### 2) 当社グループの状況

このような状況下において、当社グループは2026年度のグループ統一テーマを“ネクスト・チャレンジ 3rd 『進化する挑戦』”と設定しました。中期経営計画2027の最終年度として、過去2年間に実施した様々な取り組みを、より大きく、より価値のあるものに成長させ、しまむらグループの強みを更に強固なものとしします。

### 3) しまむら事業

①しまむら事業は、商品力の強化として、自社開発ブランド(Private Brand、以下PB)およびキャラクター商品の品揃えを拡充しました。PBでは、「FIBER DRY(ファイバードライ)」や高気温対策として販売を強化した「超COOL」が好調に推移しました。また、ウェルネスに着目した「活き活きラボ」や、家族の暮らしをラクにするシリーズ「ラクっと!」など、世相を反映して開発された商品も堅調に推移しました。キャラクター商品は、当社限定企画商品の展開やラインロビングの推進により、アウターだけでなく雑貨等も売上が伸長しました。

②販売力の強化では、気温に左右されにくい売上作りを強化し、インフルエンサーやキャラクターを活用した企画の拡大、店舗特性に応じた地域別の施策、気温に合わせた商品展開や販促を実施しました。また、オンラインストアにおいては、都市部店舗を中心に店舗受取サービスや「あわせ買い」が引き続き好調に推移しており、実店舗とオンラインの相互送客が順調に進みました。

当第1四半期連結累計期間は2店舗を開設、3店舗を閉店し、店舗数は1,422店舗となりました。

また売上高は、前年同期比7.3%増の1,308億27百万円となりました。

### 4) アベイル事業

アベイル事業では、商品力の強化として、インフルエンサー企画等によりサプライヤーとの共同開発ブランド(Joint Development Brand、以下JB)を中心としたトレンド提案を推進するとともに、キャラクター商品のラインロビングにより品揃えの拡充を進めました。

また、販売力の強化においては、重点催事「アベイルWeek」を毎月実施したことやEC受取りとの連携を通じて、アベイルファンの獲得と平日の売上向上につなげました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、323店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比9.6%増の189億17百万円となりました。

### 5) バースデイ事業

バースデイ事業では、商品力の強化として、素材にこだわった「BIRTHDAY PLUS(バースデイ プラス)」などのPBやJBを展開するとともに、ナショナルブランドとのコラボ企画を実施し、幅広いターゲット層の取り込みを図りました。

また、販売力の強化においては、お客様サポート体制を充実させた「おでかけサポートフェア」や、まとめ買いを促す「よりどり販売」など、新たな販売手法へのチャレンジを推進しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、343店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比6.2%増の238億63百万円となりました。

6) シャンブル事業

シャンブル事業では、商品力の強化として、主力JBの一層の充実に加え、キャラクター商品やギフト好適品の展開を推進しました。

また、販売力の強化においては、SNSやメールマガジンを活用したデジタル販促の強化により客数の増加につなげるとともに、オンラインストアの活用を推進しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、125店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比19.4%増の52億54百万円となりました。

7) ディパロ事業

ディパロ事業では、トレンド商品の「立ったまま履けるサンダル」が好調でした。また、ディパロの認知度向上に伴い、オンラインストアの売上も堅調に推移しています。さらに、新モデル店舗の実験も、順調に進展しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、19店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比6.8%増の2億79百万円となりました。

- 8) 以上の結果、当第1四半期連結累計期間の日本国内の業績は、売上高1,791億42百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益177億22百万円（同16.0%増）、経常利益186億47百万円（同17.9%増）、四半期純利益は127億39百万円（同17.9%増）となりました。

9) 思夢樂事業

台湾全域で店舗を展開する思夢樂は、20代から60代の女性とその家族をターゲットとした総合衣料の専門店として、日常生活に必要なソフトグッズがお客様の欲しい時に必ずある店舗の実現に向けて、事業の展開を進めています。商品力の強化においては、日本のインフルエンサー企画など魅力的な商品のラインアップを拡充しました。

販売力の強化では、台湾現地のインフルエンサーを活用した販促を強化したことで、ブランド知名度が向上しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、45店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比17.3%増の5億2百万NT\$（25億20百万円）となりました。

- 10) 以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,816億63百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益178億90百万円（同16.8%増）、経常利益187億94百万円（同18.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は128億57百万円（同19.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ、221億88百万円増加し、5,768億55百万円となりました。これは主として、有価証券の増加262億88百万円、商品の増加171億55百万円、土地の増加136億7百万円、売掛金の増加111億43百万円、現金及び預金の減少474億67百万円によるものです。

負債は前連結会計年度末と比べ、180億97百万円増加し、842億18百万円となりました。これは主として買掛金の増加150億71百万円、流動負債のその他の増加43億50百万円、賞与引当金の増加21億95百万円、未払法人税等の減少39億7百万円によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比べ、40億91百万円増加し、4,926億36百万円となりました。これは主として利益剰余金の増加48億98百万円によるものです。

2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、営業活動及び新規出店等による投資活動、ならびに財務活動を行った結果、前年同四半期連結累計期間末に比べ1,037億96百万円減少し、417億17百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ、72億30百万円増加し、37億71百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益185億88百万円、仕入債務の増加額150億62百万円、その他流動負債の増加額42億69百万円、賞与引当金の増加額21億92百万円、減価償却費18億64百万円等に対し、棚卸資産の増加額171億33百万円、売上債権の増加額111億37百万円、法人税等の支払額91億32百万円、その他の流動資産の増加額7億35百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ、317億49百万円増加し、813億56百万円となりました。これは有価証券の取得による支出1,680億円、有形固定資産の取得による支出169億61百万円、投資有価証券の取得による支出20億67百万円等に対し、有価証券の償還による収入1,056億円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ、2億39百万円増加し、79億2百万円となりました。これは配当金の支払額79億円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年3月30日の決算短信で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	89,185	41,717
売掛金	15,000	26,144
有価証券	153,183	179,471
商品	60,923	78,078
その他	3,595	4,383
流動資産合計	321,887	329,795
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	97,171	96,546
土地	55,040	68,648
その他(純額)	5,492	7,571
有形固定資産合計	157,704	172,767
無形固定資産		
借地権	1,024	1,011
ソフトウェア	613	919
ソフトウェア仮勘定	240	42
無形固定資産合計	1,879	1,973
投資その他の資産		
差入保証金	14,776	14,576
その他	58,428	57,748
貸倒引当金	△9	△5
投資その他の資産合計	73,195	72,319
固定資産合計	232,779	247,060
資産合計	554,667	576,855

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	25,696	40,767
未払法人税等	10,259	6,352
賞与引当金	3,922	6,117
執行役員賞与引当金	—	17
契約負債	—	297
その他	16,928	21,278
流動負債合計	56,806	74,831
固定負債		
定時社員退職功労引当金	1,403	1,427
役員退職慰労引当金	8	8
執行役員退職慰労引当金	379	426
退職給付に係る負債	268	251
資産除去債務	6,811	6,829
その他	443	443
固定負債合計	9,315	9,387
負債合計	66,121	84,218
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,086	17,086
資本剰余金	18,692	18,695
利益剰余金	491,054	495,953
自己株式	△47,084	△47,016
株主資本合計	479,749	484,718
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,067	7,227
繰延ヘッジ損益	26	25
為替換算調整勘定	△377	△387
退職給付に係る調整累計額	1,080	1,052
その他の包括利益累計額合計	8,796	7,918
純資産合計	488,545	492,636
負債純資産合計	554,667	576,855



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年2月21日 至 2026年5月20日)
売上高	168,369	181,663
売上原価	109,538	118,167
売上総利益	58,831	63,496
営業収入	325	323
営業総利益	59,157	63,820
販売費及び一般管理費	43,845	45,929
営業利益	15,311	17,890
営業外収益		
受取利息	204	467
受取配当金	12	197
為替差益	207	124
包装資材売却益	40	42
雑収入	36	72
営業外収益合計	501	904
営業外費用		
整理済商品券回収損	0	0
雑損失	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	15,812	18,794
特別損失		
固定資産除売却損	83	103
減損損失	41	100
災害による損失	2	0
その他	0	2
特別損失合計	127	206
税金等調整前四半期純利益	15,684	18,588
法人税等	4,881	5,731
四半期純利益	10,802	12,857
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,802	12,857

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年2月21日 至 2026年5月20日)
四半期純利益	10,802	12,857
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	518	△839
繰延ヘッジ損益	△0	△1
為替換算調整勘定	△35	△9
退職給付に係る調整額	2	△27
その他の包括利益合計	483	△878
四半期包括利益	11,286	11,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,286	11,979
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年2月21日 至 2026年5月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	15,684	18,588
減価償却費	1,565	1,864
減損損失	41	100
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,083	2,192
執行役員賞与引当金の増減額(△は減少)	15	17
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3	△61
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	64	47
定時社員退職功労引当金の増減額(△は減少)	151	24
受取利息及び受取配当金	△216	△664
為替差損益(△は益)	△211	△116
固定資産除売却損益(△は益)	83	103
売上債権の増減額(△は増加)	△8,651	△11,137
棚卸資産の増減額(△は増加)	△17,913	△17,133
仕入債務の増減額(△は減少)	14,093	15,062
契約負債の増減額(△は減少)	—	297
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△3,062	△735
その他の流動負債の増減額(△は減少)	2,660	4,269
その他	△422	△404
小計	5,968	12,315
利息及び配当金の受取額	180	588
法人税等の支払額	△9,607	△9,132
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,459	3,771
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△129,000	△168,000
有価証券の償還による収入	84,000	105,600
有形固定資産の取得による支出	△2,101	△16,961
有形固定資産の売却による収入	0	0
有形固定資産の除却による支出	△65	△89
無形固定資産の取得による支出	△74	△158
投資有価証券の取得による支出	△2,700	△2,067
差入保証金の差入による支出	△279	△152
差入保証金の回収による収入	599	472
その他	15	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,606	△81,356
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△3	△2
配当金の支払額	△7,659	△7,900
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,663	△7,902
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△60,685	△85,467
現金及び現金同等物の期首残高	206,200	127,185
現金及び現金同等物の四半期末残高	145,514	41,717

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	日本	海外	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	166,306	2,063	168,369	—	168,369
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	166,306	2,063	168,369	—	168,369
セグメント利益	15,280	31	15,311	—	15,311

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年2月21日 至 2026年5月20日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	日本	海外	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	179,142	2,520	181,663	—	181,663
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	179,142	2,520	181,663	—	181,663
セグメント利益	17,722	167	17,890	—	17,890

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。